

Y12a 日本手話による天文・地球学習教材の開発

嶺重 慎 (京都大), 高橋 淳 (水海道一高), 斉藤道雄, 長谷部倫子, 狩野桂子, 森田 明, 澤村和哉 (明晴学園), 成松一郎, 村上 文 (読書工房), 北村まさみ (つくばバリアフリー学習会), ほかプロジェクトチーム

日本で広く、公に用いられる言語は何かと問えば、ほとんどの方が「日本語」(のみ)と答えるであろう。しかし、これは事実ではない。「日本手話」という「言語」がある。日本語と日本手話(以下、手話)は、異なる言語なのだから、手話を母語とする人たちのための教材は、手話をベースに作製するのが当然である。手話には文字がないのでテキスト(書籍)の形で教材を作ることはできないため、日本語で作製した教材をろう者に翻訳してもらい、その手話の動画によって製作する必要がある。以上の背景に鑑み、ろう児・ろう者を対象の天文・地球学習教材(手話DVD)の開発を進めている。なお、手話通訳には天文学の高度な内容をわかりやすく手話で表現できる人がほとんどいないので、翻訳はろう者が担当することにした。

日本語による表現と、手話による表現には、いくつかの違いがある。まず、日本語表現は多少あいまいでも成り立つ場合も、手話表現では論理をしっかりとさせないと成り立たないことがある。例えば手話では、主語をはっきりさせ、単数と複数を区別する必要がある。星が一個生まれると、数個生まれるとでは表現が異なるのである。第二に、手話は音声語に比べ、精確な立体表現が可能だということ。重力崩壊を例にとれば、3次元的に一点に向かって潰れる場合と、平面的に(フィラメント状に)潰れる場合とでは、手の動きが異なる。動的に(瞬時に)潰れる場合と、準静的にじわじわ潰れる場合とでは、手を動かす速度が異なる。手話DVDは、ろう児にとって日本語で原稿を読むより、はるかに深い理解を可能にする。講演では、実例を紹介し、今後の展望を論じる。